

科学者委員会 学術の大型計画分科会(第1回)議事要旨

【日時】 平成21年3月16日(月)14:30~17:30

【場所】 日本学術会議5-A(2)会議室

【出席者】 岩澤委員、海部委員、鈴木委員、五條堀委員、長野委員、永宮委員、
山岸委員、金澤会長
事務局：竹林局長、渡辺参事官 他

【資料】

資料1 委員名簿

資料2 設置提案書

資料3 科学者委員会運営要綱

資料4 学術の大型研究の検討について(論点整理たたき台)

資料5 学術の大型研究計画に関する調査(依頼)(案)

第1回:大型研究施設(装置、設備等を含む)計画について

資料6 今後の進め方について(案)

参考1 対外報告「基礎科学の大型計画の在り方と推進について」

(平成19年4月10日:物理学委員会・基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会・化学委員会・総合工学委員会合同 基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会)

参考2 先端的大型研究施設での全国共同利用のあり方について(提言)

(平成17年2月4日:日本学術会議 第4部)

参考3 新しい学術の体系ー社会のための学術と文理の融合ー(抜粋)

(平成15年6月:日本学術会議 運営審議会附置新しい学術体系委員会)

参考4 学術の大型研究計画分科会に関連する意思の表出(例)

参考5 Four Years Later : An Interim Report on Facilities for the Future of Science A Twenty-Year Outlook August 2007 (DOE)

参考6-1 Major Research Equipment and Facilities Construction 2008 (NSF)

参考6-2 Overview

参考6-3 National Research Council (Organization)

参考7 “Setting Priorities for Large Research Facilities

Projects Supported by the National Science Foundation” (A Joint National Science Board- National Science Foundation Management Report)

参考8 European Roadmap for Research Infrastructures Report 2006 (European Strategy Forum on Research Infrastructures)

参考9-1 学術研究設備の現状(イメージ)

参考9-2 国立大学・大学共同利用機関における研究設備の状況

席上配布資料 ・ DOE の大型計画報告(2007)

・ Executive Summary

(DOE Office of Science Strategic Plan 2004)

・ OVERVIEW OF OPPORTUNITIES IN NUCLEAR SCIENCE

議事

1) 委員長・役員を選任

規定に基づき、互選により岩澤委員(第三部)を委員長に選出した。

岩澤委員長より、副委員長に山本委員(第一部)、幹事に長野委員(第2部)、海部委員(第三部)がそれぞれ指名され、了承された。

2) 本分科会設置の主旨・目的について

まず、金澤会長より背景・状況を含め説明があった。第一に、多額の資金を要する大型計画についてその科学的意義・妥当性を検討する仕組みの検討、第二に、G8 科学会合など国際的な場での大型計画に関する協力や情報交換における必要な対応の検討、が主な課題である。またこれら緊急性の高い検討課題に加え、大型設備・施設の計画ではないが多くの研究者を長期にわたって組織する大型研究のあり方に関しても、今後の検討の対象とすることが確認された。

続いて岩澤委員長より、資料2~4に基づいて本分科会設置の経過、背景、検討の範囲、論点の整理等が説明され、若干の質疑応答の後了承された。

3) 日本学術会議におけるこれまでの検討について

本分科会が検討する事項に関連してこれまでに日本学術会議が行った意思の表出等について、海部幹事より参考資料1~4にもとづいて説明された。日本学術会議が大型計画の評価に係わるべきであるという方向は第18期から一貫して表明されてきたが、第20期対外報告『基礎科学の大型計画の在り方と推進について』において、明確に方向付けられた。本分科会の検討は、さらにその具体化に進むものと位置づけられる。

これに関連して、日本学術会議と総合科学技術会議の役割を明確にすることが重要である、などの意見が交わされた。

4) 海外の事例について

科学の大型計画の審査・推進に関して、米国における具体的な事例を検討した。まず永宮委員より、参考資料5および関連資料にもとづき米国エネルギー局 (DoE) における粒子加速器等大型計画の審査のシステムと方法が具体的に説明された。次に海部委員より、参考資料7および7にもとづき、米国国立科学財団 (NSF) における科学の大型計画の審査方法のナショナルアカデミー等との協力による改革、現状等について説明された。

ヨーロッパの ESFRI での事例に関しては、次回岩澤委員長 (理工分野)、長野幹事 (バイオ分野)、山岸委員 (人文社会分野) よりそれぞれ報告することになった。また英国の事例について、検討を考えることになった。

5) 学術の大型計画に関する調査について

本分科会として、検討・準備段階にある大型計画の状況を把握するため、調査を行うこととした。資料5「学術の大型研究計画に関する調査(案)」にもとづいて岩澤委員長、海部幹事より提案があり、今回を第一回と位置づけて数十億円規模以上の大型設備・施設の計画に限定して調査を行うこと、第二回以降は大規模研究についても考慮すること、今回の調査対象は付置研究所を持つ規模の大学、同付置研究所、大学共同利用機関、独立行政法人研究機関とすることなどを確認し、若干の修正を経て、早急に実施に移すことになった。締め切りは4月16日とする。

6) その他

次回(第2回)は4月20日(月) 14:00~16:00に開催することとした。

なお5~7月の日程について、事務局より改めて調整を行う。

(以上)